

## 加藤弘之日記 — 明治十八年一月〜十二月 —

中野 実

## 解題・初代東京大学総理加藤弘之の日記について

— 明治十八年を中心にして —

## 一 はじめに——日記の概略

加藤の日記は東京大学史料室に所蔵され、所蔵日記の期間、概要は『東京大学史料目録 三』(昭和五二年二月)に記載されている。日記の内容については「天候、体調、一日の行動などが主な記載事項であるが、時にその他の内容的な記事が記入されている。またほとんどの場合、一冊の日記の中の前半は日記であるが、後半は出納帳や備忘録に使われていて、中には重要な事項が見られる。保存状態についてはかなり良好で破損や虫喰いは非常に少ない。」とある。

ところで、加藤の日記はこれまで大久保利謙氏『明六社考』(一九七六年)、吉田曠二氏『加藤弘之の研究』(同年)などで取り上げられ、最近では九一年九月に出版された、高橋眞司氏の『ホッブス哲学と近代日本』(未來社)に収録されている「加藤弘之日記を読む——『人權新説』、『主権論』とのかわり」がある。なお、『加藤弘之文書』(全三冊、一九九〇年、同朋舎出版)も出版されている。

本号以後、継続して加藤の日記を覆刻していく。

## 二 加藤の略歴

本来ならば、筆者である加藤の略歴を記すべきであろうが、すでに加藤に関する伝記、評伝、研究書が数多く刊行されており、辞典類からも情報が得られることから考えて、また今回取り上げた年の内容を考慮すると、官歴を中心とする略歴よりも家族を含めたものが適切と考えられる。ここでは、人事興信録(第二版、明治四一年六月)から引用しておく。明治十八年当時の住所は、この末尾にある場所と同一である。

加藤 弘之	正三位勲一等男爵、東京帝国大 学名誉教授、宮中顧問官、文学博 士、法学博士、旧出石藩士
妻 寿々	弘化三年七月生 大阪府土族市川兼恭養女
男 照麿	文久三年九月生 医学博士侍医
婦 津禰	明治二年五月生男照麿妻 東京府土族若橋静雄長女
男 晴比古	明治三年十月生 日本銀行西部支店長
婦 よね	明治十八年八月生男晴比古妻 東京府平民池田庄吉三女

君は旧出石藩士加藤四郎兵衛の長男にして天保七年六月二十三日を以て生

る旧名を弘蔵といふ長ずるに及び江戸に來り深く洋学を攻究す明治元年政  
 体律令調査御用掛に會計官権判事に大学大丞侍読等に任じ文部大丞大外史  
 外務大丞東京大学總理元老院議官帝國大学総長等に歴任し明治二十三年貴  
 族院議員に勅任せられ三十三年五月男爵を授けられ現に宮中顧問官たり家  
 族は前記の外孫成之(明治二十六年九月生男照鷹一男) 同四郎(同二十九年  
 四月生同人四男) 同雪子(同三十一年三月生同人長女) 同鋭五(同三十三年  
 十二月生同人五男) 同綾子(同三十九年九月生男晴比古長女) あり六男郎  
 (同三十六年八月生) は鉄道技師古川武太郎の養子と為り孫七郎(同三十八  
 年四月生男照鷹七男) は新潟県平民増田義一の養子となり女多嘉(慶応三  
 年九月生) は、公爵山県有朋嗣子前通信大臣山県伊三郎に女幸子(明治六  
 年六月生) は新潟県士族内務省技師土木局治水課長心得工學博士近藤虎五  
 郎に嫁し三男竹吉(同九年十二月生) は長崎県士族馬渡俊猷養嗣子と為三女  
 徳子(同十一年五月生) は静岡県士族古川宣蒼長男鉄道技師古川武太郎に四  
 女梅子(同十四年二月生) は福岡医科大学教授醫學博士種保三郎に五女久子  
 (同十七年八月生) は東京工科大学教授工學博士俄國一に嫁せり(東京市麴町  
 區上二番町四四電話番町六八六)

### 三 明治十八年の日記について

明治十八年の日記(表題は「明治十八年日記乙 附十七年末熱海入浴日記」)  
 は一月一日から始まり十二月三十一日で終わる一年間の記録と、末尾の「湯本  
 へ持越シタル金ノ内ヨリ遣フタル分(金銭出納帳)、明治十七年十二月二十四日  
 から三十一日までの熱海行きの日記、「祭事入用」、雜記の計七枚とからなる。  
 まず、加藤自身について。この年、加藤は四九才になっている。六月二三日  
 の条に「誕生日満四十九年」と記し、「四十九年」に三角(△)のルビをわざわ  
 ざふっている。いま考えれば弱冠四九才である。病氣は家族に多かつたが、本

人は腫物が出来たり、耳痛などで済んだ。ちなみに齒は丈夫だったらしく、七  
 月二二日の条をみると「今夕食事之節左下ノ奥齒一ツ抜ケル、去年頃ヨリ動キ  
 且時ニ少々之痛ミアリタリ、齒ノ抜ケタル初度ナリ」とある。加藤家の大きな  
 行事といえば、二月五日の「祖先并先考先妣御祭事」である。「旧藩主公并御  
 家族及旧同藩旧同郷諸氏」を百人ばかり呼び盛大に行つた。この日の条には「比  
 日前夜曇リタル故大ニ心配シタルニ朝ヨリ大快晴、実ニ清朗大愉快ノ天気ナリ  
 キ、且温暖ナル日ナリ故ニ一同大満足ノ様子ナリキ」と手放して喜んでいる。  
 加藤は随分家族を心配しており、それは随所に見られる。日記から最もよく判  
 るのは、父、あるいは人間としての加藤弘之であり、その配慮というか思いや  
 りは相当なものであると思われる。十八年の日記を通読した一番の収穫はその  
 側面であつた。

登場人物はそれほど多くはない。その人物を家族とそれ以外と分けると、頻  
 出するのはやはり家族である。医師と家族以外の主な人物を左記に掲げる。

菊池武夫 関谷清景 巖谷立太郎 松井直吉 佐藤進 大木喬任

青木(留蔵)公使 小中村(清矩) 杉田成卿 浜尾新 島田(重礼) 内藤(耻叟)

木村正辞 菊池大六(麓) 小金井(良精) 和田維四郎 大久保一翁

石川千代松 三宅(秀) 長井長義 松村(三)

もちろん一二月二四日には「政府大改革森有礼文部大臣トナル伊藤博文内閣  
 總理大臣トナル」とあるが、その感想、意見などは全くみられない。以上の人  
 物についても同様で、送別会、帰朝報告、見舞、会合などでの名前だけで、内  
 容を窺ふことは出来ない。このほか、外国人教師には、ネットウ、ワグネル、  
 ワッテル、ナウマン、エーキマン、グロート、アップール、ベルツが登場する  
 が、邦人の場合と同様に内容の記載はない。

大学関係の行事としては、別課医学製薬学生徒卒業式、走舸組競漕會、運動  
 會、学位授与式などである。このほか五月二十五日の大学教師饗應の會がある。  
 矢田部良吉の日記にもあり「天気好シ十二時過キヨリ植物園ニテ開ケル大学ノ

午餐ノ宴ニ行く、来会者凡七十名アリタリ(句読点は引用者)となっている。加藤のも五十歩百歩である。九月三〇日には大学小集会が開催されている。同じく矢田部の日記では「大学親睦会」であり三〇名程集まったことが知られる。なお、不明なのは大学の公的な会合、矢田部の日記で確認された諮詢会などの記載が全くないことである。最後に文部省関係の記事であるが、二八回を数える。このうち、文部卿、あるいは大臣とかかれているのは八回である。月別にみると、一月一五回、二月一回、三月一五回、四月、五月、六月一各一回、七月、九月二回(八月はなし)、一〇月一回、十一月一五回、十二月一四回である。単に文部省に行く、と書かれているほか親睦会、小集会、会議などの名称も付されている。一〇月七日の文部省親睦会には矢田部も出席している。

#### 四 加藤と初代帝国大学総長

帝国大学の改革、帝国大学創立に関わる内容のある情報は得られないが、ここで少し帝国大学史にとってこの年の最大の関心事であった、総長選任経緯を記しておく。

帝国大学創設にあたって、森は帝大総長にそれまで総理であった加藤弘之を元老院議員に転出させ、その代わりに東京府知事の渡辺洪基をもってきた。さらに教官人事も行政整理の関係もあり大胆に行った。この総長人事は森と加藤との関係が悪かったこと、「帝国大学総長職が学者の職であるより、行政官ぶさわしいもの」(『東京大学百年史』通史一、八〇二頁)となったため、工部大学校の合併に対する配慮、伊藤博文と渡辺との関係などからこれまでよく説明されてきた。

ところで、明治十八年二月から十九年三月までの帝大創設に関わる人事を見ると、総長の任免が最後であったことが判る。すでに、帝国大学令制定と同時に三月一日付で各分科大学長(法科は教頭)の任命は行われていた。彼らす

べて旧東京大学の教授であった。

加藤の日記を見ると、内閣制度創設を挟む十八年二月二日から二八日に湯本温泉に出発する間、頻繁に文部省(卿)と会っており、解任の打診はその間に行われたと考えられる。元老院転出までの十九年の日記には文部省関係の記事はない。このように見ると、かなり早い時期に加藤の解任は決定されたが、新任に手間取ったということになる。

なぜ、新任がなかなか決まらなかったのか。その詳しい事情はよく判らない。西村の伝記(伝記編集会『泊翁西村茂樹伝』昭和八年、五六八頁)によれば、明確に渡辺が唯一人の総長候補者でなかったことが判る。新聞報道では西村は候補者として挙げられていないが、森自身であり、辻新次文部次官、前田正名、浜尾新などが挙げられていた。それらは全員、大学以外の人材であった。そして西村が総長就任の「内意」を受けたのは二月一九日であり、それは閣議で帝国大学案が審議される五日前であった。総長選任は新大学構想とかわり、直線的な経緯を辿らなかつたことを推測させる。

このうち、一八九〇年(明治二三)には加藤が第二代総長に就任している。この返り咲きを三宅雪嶺は「何れかといへば加藤は東京大学総理を以て終り、帝大総長とならないほうがよかつたろう。東京大学が加藤を以て始め、加藤を以て終つたとなつた方がきまりがついて面白い。(中略)加藤が一個の事務家として立つたならば格別、学術及び教育に身を委ぬる限り、帝大総長を辞任すべきであつたらう。」(『大学今昔譚』昭和二年一月、六二頁)と評価していた。あらためて、東京大学史にとって、あるいは加藤にとって帝国大学創設とはなんであったかを考えさせる。加藤の後任、第三代総長選任にあたって、時の文相井上毅は「後日は総長を廃する之時期に到着する事不遠事存候」と伊藤博文首相に書簡を送っていた(伊藤博文関係文書一、前掲『東京大学百年史』通史一、昭和五九年一月、八四一頁より再引用)。

凡例

1. 覆刻に当たっては、原文通りを原則とし、漢字は通用の新字体を用いた。
2. 本文中判読不能、欠けている箇所は□で示した。
3. 合字の「リコト」は「トモ」とし、句点は適宜付した。
4. 本文中朱筆、朱点、墨点は区別しなかつた。

明治十八年紀元二千五百四十五年西曆一千八百八十五年

一月

一日 晴

去年十二月二十四日熱海入浴出立ヨリ引続キ逗留、熱海ニテ越年、

今日ハ頗ル快晴心持宜シ今日午時雜煮三ツ食ス佐午後宇都宮、原田、菊

池武夫、関谷、巖谷、松井其外来ル、又森方へ參ル散步。東京へ手紙ヲ出ス

二日 晴 午後二時頃より雨

午前安藤来ル、午後伊豆山へ參ル、帰り小雨ニ而困ル、東京より三十一日之新聞来ル

三日 晴

午前佐藤進入浴来ル由ニ而来ル、菊池武夫来ル、午後印東玄得も来浴之よしニ而来ル、夜露木ニ而土子金四郎文学士落語ヲナス、聴聞ニ參ル多人數、東京より新聞着書状同様此方より書状出ス

四日 晴

諸人来ル午後諸処へ參ル

五日 晴

昨日同様諸人来ル、諸処へ參ル

六日 快晴

今朝七時比出立帰途ニ就ク、尤今日ハ小田原迄歩行、途中霜解ケニテ困ル、二時五十分小田原片岡へ着一泊

七日 曇雪

七時過小田原人力ニ而出立寒甚シ、藤沢辺ヨリ雪少、降り、戸塚ニテ午飯、其比より雪追々盛ニナリ神奈川へ三時半過着、五時横浜発之汽車ニテ帰ル、尤新橋着之比雪益甚タシク、迎馬車晴彦来ル、藤村、佐七八人力ナキ故、佐七八歩行、藤村ハステーションへ預ケ置キ帰ル、丁度七時半前位ナリ。昨今（曇雪）□□入用、熱海より小田原迄人力藤村卷丁六拾三錢、小田原より金川迄人力三丁三円四十五錢一丁ニ而錢ナリ金川より小田原迄ハ卷丁卷、汽車自分八十五錢、佐七式拾五錢、円〇五錢ナレハ卷丁ニ付拾錢ノ違、（但土産買物モ此内是）熱海行惣入用五拾四円宛レハ大凡六円宛ナリ

八日 雪午後曇

終日休息、先日歩行ニテ足少々痛シ、夕方正矩来ル一酌

九日 晴

大学出勤、帰リハ馬車ニテハ雪道難<sup>マズ</sup>義故、人力ヲ雇フ。独乙へ書状ヲ出ス但英船

十日 晴

文部省へ参リ、佐藤進ノ事ヲ談ス

十一日 曇小晴

在宅

十二日 曇小雪風

大学出勤、種痘医大野へ礼ヲナス、金三円種痘人拾五  
六人ナリ

十三日 晴寒

理学部出勤、帰リ山縣九段へ参ル皆不在。夕方子供并俊郎同道富士見軒へ参ル

十四日 晴寒 午前七時三十度

大学出勤、帰リ佐藤へ参ル。木村孝安馬之事ニ付来ル。明十五日出帆ノ米船ニ而独乙へ書状母子供  
ヨリ出ス

十五日 晴寒

今日元老院開院ニ付御先着可罷出候処所勞之旨ニ而断。午後四時よ

り大学事務吏五十嵐、羽田野、西郷、市川、坪内、石原、富塚、三

輪、小林、小泉、白木ヲ富士見軒へ招待ス、料理一人前老田三拾錢酒フトウ。梅夜熱アリ徳も風引セリ

十六日 晴

大学出勤。昨日馬医岡本来ル

十七日 晴

理学部出勤歩、午後帰リより丸ノ内辺散歩。夕方山縣伊三郎来ル、明後日赤坂四谷等ヲ富士見軒ニテ招待之事、高子風邪ニ付延引ス

十八日 小晴

在宅諸人来ル

十九日 晴

大学出勤、出カケ文部卿宅へ参ル不在

廿日 晴

大学出勤

廿一日 晴寒

理学部出勤歩、文部省へ参ル

廿二日 晴

午後ヨリ文部省へ出ツ、劍柔ノコト會議

廿三日 晴

大学出勤

廿四日 晴

理学部出勤、ソレヨリ丸ノ内辺散歩。去年十二月十一日独乙発ノ書  
留状来ル、此次ノ為替早ク差越呉候様申越ス

廿五日 小晴雨

午前九時ヨリ渡部、河合同道ニ而歩行ニ而龜戸へ參ル、柳島橋本ニ  
而午飯、帰り雨ニ逢随分困難。今日二度目併□

廿六日 晴

大学出勤、ソレヨリ文部省

廿七日 晴

理学部、ソレヨリ大学、帰歩行

廿八日 晴 風

大学出勤

廿九日 晴

大学出勤。今日百体祭ニ付、監獄吏其外ヲ饗ス

三十日 晴

今日孝明天皇祭之所所勞断、午前正矩来ル。独乙照鷹学資金五百拾  
弗即六ヶ月分今日仏船ニ而送ル、但上海香港銀行之替為ニ可致処、  
右銀行少、評価不宜ニ付、高田商会ニ托シ同会ヨリ倫敦支店へ申遣  
シ、右支店ヨリ独乙公使館へ送金致シ呉候筈ニ而、高田よりも今日  
便ニ書状出候筈、高田より之証青木へ出ス、此五百拾弗毎月八四月  
ヨリ九月迄ノ筈、実ハ五月迄ハ先便之分ニ而間ニ合フ筈之処不足之  
旨初ノ一ヶ年ハ入費多故申越シ不得已早メ送リト事ナリ、五百拾弗ハ札ニ而五  
百八拾三円四拾四錢ナリ

三十一日 晴

理学部出勤、今日別課医学製薬学生徒卒業式、理学部講義室ニ於テ

二月

一日 晴 夜大風

在宅。お鈴乳薄キよしニ付、佐々木より薬ヲ貰フ、今日ヨリ始メル

二日 曇 雪少、

大学出勤

三日 晴

大学出勤、今日馭者椎名幸之輔ヲ止メ、山本友吉ナル者ヲ雇フ、今日佐々木見舞クレル、是レニ而四度見舞フタリ。鹿毛馬痛所何分快方ナラサルニ付、今日駒場農学校馬病院ニ入レル

四日 晴

理学部出勤、ソレヨリ文部省へ参ル。午後四時半より富士見軒ニ而四谷赤坂両家夫婦ヲ招待ス、此方よりも兩人参ル、ソレヨリ四谷迄散歩、料理壹円三十銭、酒シヤンパン、セリ、ブドウ

五日 晴

大学出勤

六日 晴

所勞之旨ニ付断、四谷市谷辺散歩午後、午後二時比地震大ナリ、余ハ步行中ナレトモ感シタリ。幸、徳一兩日前ヨリ熱少々発、顔面并眼目赤シ麻疹ナル乎。今日独乙より書状着無事、但十一月廿一日書、頗ル延引セリ、其後十二月廿一日之書状ハ既ニ去月廿四日着セリ。今米船ニ而独乙へ新聞ヲ出ス

七日 晴

大学出勤

八日 小晴夜雪五六寸

午後午込市ヶ谷辺散歩。幸、徳麻疹之様ニ見ユ、竹内、佐々木へ診察ヲ頼ム

九日 雪後小晴

大学出勤。幸、徳今日比多ク発ス、併強シ

十日 晴

大学出勤。鈴昨夜より腹痛、竹内診察、今晚下女徹夜

十一日 晴

紀之節ニ付参内、但今日ハ御風氣ニ付宴会ハナク御祝酒ヲ賜フ。徳ハ大ニ快方、幸ハ今日比最熾、併明日頃より追々快方ナルヘシ、鈴腹痛今日ハ少々よろし。紀元節ニ付、八木馭者へ各二十銭、中間馬丁へ拾銭ツ、下女ハ拾銭ツ、毎年年始、紀元節、天長節ニハ此例ニヨルベシ、佐々木、竹内来ル、佐々木今日迄ニテ六床地五度宛

十二日 晴風

鈴昨夜より大便殆ト全血ニ付竹内、佐々木等頼ム、午後ヨリ少々よろし分量も減ス。午前十一時半ヨリ出学、三時ヨリ法文学部にて文学部教員ヲ集メ、学問ト云フコトニ就キ卑見ヲ述テ諸先生ニ質スト至ル題ニテ演説ス、是ハ和漢教員ノ学問ト云フヲ知ラサル故戒ムル為メナリ。夜、竹内見廻クレル、追々よろし

十三日 晴風

今朝佐々木、竹内診察相談処方致クレル、追々よろし、幸、徳ノ麻疹モ追々よろし。独乙へ書面出ス、書面届クヤ否ヲ知り易クスル為メ自今番号ヲ用フ、今便ヲ第一号トス<sup>第一号</sup>、今日所勞断

十四日 晴

所勞ノ旨ニ而不參、鈴追々よろし、竹内、佐々木兩人共見舞クレル、子供モ追々よろし

十五日 晴

午後一時半ヨリ歩行ニ而学士会院參リ、先日之同題ニ而演説ス<sup>即十二日ニテ</sup>大学ニテナセルモノ、鈴追々よろし、今日ハ尋常之便アリ、竹内、佐々木来リクレル

十六日 晴風大

今日も断、午後赤坂山縣、西久保仙石公へ參ル。今日日本鉄道会社昨下半季ノ割賦金ヲ受取ル、即二百〇六円<sup>年一</sup>割、且第六回分払込<sup>三十株</sup>ヲナス、是レハ百弍拾円ナリ

十七日 晴

出学、晴疹麻疹ナリヤ否未タ分ラス、又今日比より梅、発熱、麻疹之様ナリ、鈴追々よろし、佐々木来ル、是迄ニ而九度斗

十八日 晴

出学<sup>歩</sup>、晴、梅、麻疹ナリヤ未タ分ラス。今日独乙へ新聞を出ス

十九日 晴風

理学部出勤、帰リハ歩行、晴疹、梅、久も麻疹ナリ

廿日 晴大雨

大学出勤、午後三時より哲学会へ出ス

廿一日 晴風

今日所勞之旨ニ而断。夕方山縣伊三郎来ル、高も麻疹ノ由

廿二日 晴無風

午前勤工場へ參リ子供ノ翫物ヲ求ム、午後赤坂へ見舞ニ參ル、先輕キ方、夫より四谷へ參ル

廿三日 晴

出学。共同会社株ヲ売ル、大損ナレトモ景氣悪敷故思切リタリ

廿四日 晴夜雨

出学、ソレヨリ歩行ニ而赤坂へ見舞參ル、大ニよろし、独乙より年始状来ル



廿五日 雨

所勞斷、風之氣味

廿六日 晴

出學歸歩行

廿七日 小晴一寸雷

理學部出勤。生命保險会社へ保險料貳百〇八円五十錢ヲ納ムル十八年七月ヨリ十九年二月廿七日迄之分、是ニテ三ヶ年納メタリ即六百貳拾五円五十錢ナリ。獨乙へ書狀ヲ出ヌ第二号。獨乙ヨリ一月七日出シ書狀來ル、壯健ナリ

廿八日

大學出勤。伊藤大使見送新橋迄參ル、ソレヨリ赤坂山縣へ參ル

三月

一日 晴

午後散步、ソレヨリ明六社三河屋へ參ル

二日 晴

大學出勤、出掛ケ奥山市川へ參ル、歸歩行。鈴山縣來ル、高追々よろしき由。獨乙へ新聞ヲ出ス

三日 快晴風

大學出勤、歸歩行

四日 晴

大學出勤、歸歩行

五日 晴夕小雨夜隨分

理學部出勤、ソレヨリ歩行ニ而赤坂へ見舞ニ參ル、追々よろし、夕方鈴九段山縣へ來ル、見舞ナリ

六日 雨

久シ振之雨ニテ快シ、大學出勤

七日 曇小晴

今日朝鮮使節等大學へ來ルニ付先ツ理學部へ出、ソレヨリ大學出勤、歸歩行。馬渡俊猷横濱詰トナリ引越ニ付今日參ル、竹吉ハ今一夜泊ル。今朝獨乙より書面來ル、一月十五日出ナリ

八日 晴午後曇風

午後虎ノ門愛宕下銀座辺散步。今朝馬渡家來ル、竹吉も共ニ横濱へ參ル

九日 晴午後小晴

出學、歸歩行、正矩晴彦ト共ニ夕方富士見軒へ參ル、更ニ歩行。今

日大山陸軍卿夜会招カレタレトモ断

十日 晴風

出学、帰歩行

十一日 小晴一寸雪

理学部出勤、帰歩行。赤坂へ参ル、快方、今夕大迫惣監より晚餐招カレタレトモ断

十二日 晴風

大学出勤、帰歩行

十三日 晴風

所勞之旨ニ而断。今日仏船ニ而欧州へ書面<sup>第三</sup>新聞出ス、且ツ書籍注文ヲ頼遣ス

十四日 晴

出学

十五日 晴

午後学士会院へ参ル、参りかけ小中村方へ立寄ル。今日鈴快復、祝ヲナス、佐々木へ礼拾五円ノ割<sup>一</sup>巴宛、竹内へ式拾円

十六日 雨一寸雪

出学、帰りかけ文部省へ参ル

十木<sup>(株)</sup>申

(記述なし)

十七日 晴風

理学部出勤、帰丸ノ内歩行

十八日 晴

出学、帰歩行、山縣九段へ見舞ニ参ル

今日之日、新聞ニ東洋銀行(三月十六日倫敦發)東洋銀行之負債処分掛リハ預ケ主ニ向テ来九月下旬迄ニ一ポントニ付拾七シルリングを払フテ打切ラン事ヲ相談シタリ(横浜メイル新聞)トアリ、来廿一日之便ニ独乙へ可申遣積リ

十九日 晴

出学歩行、午後文部省へ参ル。今日独乙より二月三日之書状着、無事

廿日 晴風夜小暴風雨

今日春季皇靈祭之処所勞不参、夜散歩、正矩来ル午飯

廿一日 夜大風夕方一寸雨

文部省呼出ニ付出ツ、午後散步。独逸へ書面ヲ出ス第四米船号

廿二日 晴

朝髪ツミ。出半床前帰午後二時過より一同四谷へ被招參ル、往返歩行

廿三日 晴

出学帰歩行。久、不快熱三十九度斗、但格別之事無よし、竹内話

廿四日 雪存外

理学部出勤、出掛陸軍省へ參ル、終日雪但十一時比より

廿五日 晴

出学。久、何分同様ナリ併熱少々減ス

廿六日 曇

所勞之旨ニテ断。午後赤坂青山四谷辺散歩、久、少々よろし、但夜腹痛アリ

廿七日 曇小晴

出学帰歩行、独乙へ新聞ヲ出ス、久、先ツ少々よろし。高、麻疹後始テ来ル

廿八日 晴風

出学ソレヨリ上野精養軒、文部省親睦会へ參ル、帰歩行。久、追、快方

廿九日 小晴

在宅、日本鉄道新募株百株内百八拾株ヲ須藤清七ト申ス者へ渡ス、此代金七十式円即一株九〇。同式拾株ノ予約金式拾円ヲ入レル、跡八十円ハ五月中ニ入レルナリ

三十日 晴

文部卿宅へ參リ、ソレヨリ理学部出勤、ソレヨリ文部省帰歩行

三十一日 雨小晴

出学帰歩行

四月

一日 雨

出学。午後一時過ヨリ家族一同并高九段鈴木へ參リ写真ス、近日独逸へ送ル為メナリ、但竹吉ハ横浜故写ス能ハス

二日 今晚より雪二寸斗後雨小晴

出学帰歩行。独乙へ書面ヲ出ス第五号

三日 曇小雨

神武天皇祭之処所勞之旨ニ而断、終日在宅

四日 曇一寸雨

理学部、ソレヨリ今日杉田成卿二十七回祭ニ而紅葉館へ披招タルニ  
付参ル、同座五六十人ヲ贈ル備物式円、午後八時過帰ル

五日 小雨

在宅、正矩一寸参ル

六日 雨

出学

七日 雨

今日勲章奉授式列立ノタメ参内達シアリ参内ス

八日 小晴大風

理学部、帰山縣段九子供死去シタル故ナリ

九日 雨

出学

十日 晴

出学帰歩行、富士見軒へ参ル、晴彦も参ル。独乙へ新聞并写真ヲ送ル

十一日 小雨

出学。今日九段山縣葬式ニ付鈴、晴彦参ル、晴彦ハ寺へも参ル

十二日 晴

今日大学、生、徒走舸組競漕会アリ参ル、往返歩行

十三日 雨

出学。山縣法事ニ付夫妻招カレタレトモ断

十四日 曇雨

理学部出掛ケ大木へ参ル、午後講義室ニテ緒方正規肺炎病菌発見之  
演説ヲナセリ、帰歩行

十五日 小晴

出学、午後学士会院へ参ル

十六日 晴

出学歩行。独乙へ書面ヲ出ス米船第六号。独乙ヨリ二月廿二日出之書  
面来ル無事、米船ヨリ

十七日 雨

出学、今日馭者山本不快ニ付学校之馭者借用ス

十八日 曇小晴

所勞之旨ニ而断。去年今夜照鷹留別ニ而、朋友ヲ招キ頗ル盛会ナリ  
キ

十九日 快晴

正矩来ル、今日十二時ニ教師子ツトウ之招ニ而、上野四軒寺跡同人  
居宅へ參ル、ワグネル、浜尾、関野、野呂同道、往返步行、今日始  
テ之快晴故上野看桜之人夥シ、昨日日清談判調印済平和ニ帰シ伊藤  
大使直ニ今日出帆帰朝スル由電報アリタリ

廿日 雨

独乙より写真ヲ差越ス、書面モアリ無事、去年今日ハ照鷹独乙へ出  
帆ノ日ナリ。出学

廿一日 小雨小晴

理学部出掛ヶ山縣へ參ル、節酒会相談ニ參ル、帰步行

廿二日 曇小雨

出学帰步行

廿三日 小晴

出学帰步行

廿四日 小晴

出学帰步行

廿五日 小晴

出学往返步行。高来ル、横浜竹吉来ル、泊ル

廿六日 晴夜雨大二暖

今日宅ニ而花見。午前十一時比より正矩ト共ニ保晃会寄附寄席アル  
両国中村樓江參ル、帰り富士見軒晚餐。夜馬丁常次郎酒狂乱暴ニ付  
木村へ渡ス

廿七日 雨小晴

出学。独乙へ書面<sup>第七新聞</sup>共出ス米船

廿八日 晴暖

理学部、午後今日大使<sup>伊藤博文</sup>帰京ニ付新橋へ迎參ル、新橋より步行

廿九日 曇雨

所勞断、足ニ膨物出タル故、尤甚々小氣分、直ニ消滅スヘケレトモ  
用心ナリ

三十日 小雨曇

今日工部大学校卒業授与式ニ付披招十時より參ル、右了テ立食アリ

一時過帰ル、夜九時頃本郷春木町火事学校へ出ツ、坪井出火近辺故  
見舞参ル

五月

一日 小晴

出学帰歩行。今朝独乙より三月十二日出之書面着。高今日より参ル、  
当分逗留出産ノ為メナリ

二日 晴寒シ

出学往返歩行

三日 快晴

今日文学会演説ニ付九時より理学部へ参ル、権力及自由ノ性質ト云  
ヘル事ヲ演説ス、但シ先会ノ続キ、午後島田、内藤ヲ富士見軒ニ招  
待ス

四日 晴風

出学帰歩行、高病氣ニ付学校馬丁ヲ借用ス、髪ツミ。出石学校へ四  
五ノ二ヶ月分八円ヲ加藤洗江遣ス

五日 小晴風

所勞之旨ニ付断、今日観桜御会ナレトモ

六日 晴風ナシ

出学、午後より子供等大学迄参リ、ソレヨリ上野へ召連共進会、博  
物場等見物サセ、帰り雁館へ参ル

七日 晴風

出学帰歩行

八日 晴

出学往返歩行

九日 小晴

文部省へ参ル、此西三日前より胃不宜

十日 雨

午後正矩、丹所、自分、晴彦、富士見軒へ参ル、丹所へ小学ノ事ヲ  
聞クタメ招キタリ。家族一同雨天ナレトモ植物園へ参ル、自分、晴  
彦も午後参ル、雨景モ随分ヨロシ

十一日 晴一寸雨

出学。今日ハ大学ニテ文部省ノ小集会ヲナス、晚餐アリ。今日米船  
ニテ独逸へ書面第八号ヲ出ス新聞モ出ス帰

十二日 晴

理学部、ソレヨリ今日ハ植物園ニテ独乙協会春期之集会アルニ付参  
リ演説ヲナス

十九日 曇小晴  
理学部出勤

十三日 晴

廿日 小晴雨雷

出学往返歩行。午後六時より教師ワツテル方へ被招参ル。腸胃カタ  
ル夜全快セス

出学帰歩行。夕方風邪ノ心持

十四日 晴

廿一日 晴  
出学往返歩行。山縣参議来ル

理学部へ出ツ。今日灌腸ス通シナキ故ナリ、ソレヨリ少々よろし

十五日 小雨寒し

廿二日 快晴  
出学。午後三時過より今度神奈川県忍ノ方へ引越シタル竹村十学夫

出学、ソレヨリ学士会院へ参ル

婦二男加藤洗ヲ招ク、正矩モ来ル

十六日 小雨寒シ

廿三日 快晴

出学、午後木村正辞方へ被招参ル

今日ハ出学セス、午後一時ヨリ延遠館ニ而先日清韓へ派遣、全權大

十七日 晴

使ノ談判平和ニ帰シタルヲ祝スルタメ、勅奏官ヨリ右大使等ヲ招キ  
タルニ付参ル、立食

在宅正矩来ル。見セ馬來ル、春馬一頭ヲ留メ置ク、子ツトウ等へ見  
スル為メナリ

廿四日 晴  
在宅

十八日 雨

出学。今日七分利金録利子出ル

廿五日 曇一寸雨

今日ハ植物園にて大学教師饗応午餐ニ付十一時より参ル、帰リハ六

時前。今日独乙へ書面<sup>第九号</sup>新聞出ス米船ナリ。馬一頭ヲ買フ、六拾五円七八銭、青馬南部ナリ、是レニ而三頭ナリ、但一頭ハ二月初旬ヨリファルシー<sup>伝染病</sup>よて駒場農学校へ遺置今以其俸ナリ

廿六日 晴

出学、午後三時より近日留学ニ参ル助教野呂ノ送別ニ付中村楼へ参ル。独乙より三月三十一日出ノ書着、為替金も着シタル由、是レハ四月ヨリ九月中迄之分ナリ

廿七日 小雨

理学部出勤

廿八日 曇小雨

出学帰歩行

廿九日 快晴併少々寒シ

三十日 晴

出学

三十一日 晴風

在宅

六月

一日 雨

出学。午後七時半ヨリ文部卿晚餐ニ招カル

二日 雨

理学部出勤、帰り山縣へ参ル

三日 雨

出学。馭者山本友吉心得不宜、今朝叱り置ク

四日 雨

出学。駒場へ入レ置キタル病馬ヲ掃除、梅二郎へ遣ス

五日 小晴

出学往返歩行。独乙書面<sup>第十号</sup>新聞ヲ出ス米船

六日 小晴

出学。今日大学、生競技運動会アリ。午後三時過より松源へ参ル、坪井翁門生等集会、坪井翁、同次郎細君并深川未亡人ヲ餐ス、午後十時比帰ル歩行

七日 晴

在宅。午後五時十五六分頃高分娩、女子出生セリ、産ハ軽キ方ナレ



トモ跡出血多ク為メニ殆ト卒倒セントセリ、且分娩之際少々傷ツケリ故ニ橋本、原桂仙等相談ノ上翌日縫フ、且夫レ々、療治セリ始メ、原ヲ呼ニヤリタレトモ間ニ合ハス、因テ竹内ヲ頼ム、小山田来リ尽力セリ

八日 雨

所勞ノ旨ニテ断、母子先ツよろし醫師来ル

九日 雨

出学、高先ツ追々よろし

十日 小雨

理学部。今日ヨリ高ノ看護婦ヲ雇フ、第二医院ノ看護婦、尤左満ト申練熟セルモノナリ

十一日 晴

出学。高午後体温三十九度迄昇ル、橋本、原相談。今日ヨリ高、原ノ薬、今日迄ハ竹内

十二日 小晴

出学。今日高下熱劑ヲ用フ、但右遅キ故格別効能ナシ、明朝相用フル筈。今日帰り歩行

十三日 小晴

出学。高同様、少々よろしき方小水ハ今日より自然ニ出ツ。今日七夜山縣母等来ル。独乙へ書面ヲ出ス高分娩ヲ知ラセル<sup>第十一号</sup>

十四日 晴

在宅、今日高大ニよろしき旨原、橋本共申ス

十五日 曇小晴 雨

出学、午後学士会院へ参ル。高今日ハ大ニよろしき由。竹吉横浜ヨリ来ル、子供一同日枝神社祭礼ニ付金物屋へ参ル

十六日 雨

高今朝体温<sup>(床前)</sup>木十四度三十六度四分大ニ減ス。理学部出勤。竹吉帰港

十七日 雨

出学。高追々よろし

十八日 曇小晴

出学。独乙へ書状并新聞ヲ出ス、書状ハ十二号米船ナリ

十九日 晴

出学、往返歩行。高下熱劑ヲ止メタレトモ増熱セス、大抵三拾七度三四分ニ止ル

廿日 晴

内務省へ参り土木局長へ談シ、又海軍省へ参り主船局長へ談ス。高追、よろし

廿一日 晴俄ニ暑八十五度

午後大学へ参ル、椿山古代ノ墳墓タルヘシトノ事ニ付発掘スルヲ以テナリ。菊池大六婦朝

廿二日 晴暑

出学、出掛ケ歩行帰リ馬車。独乙より書面来ル無事ナリ四月三十日及ヒ五月五日ノ二通

廿三日 雨

出学、出掛ケ歩行(探訪)

理学部。誕生日満四十九年△△△

廿四日 晴

出学、出掛ケ歩行

廿五日 晴 少シ冷

出学、出掛ケ歩行、一寸玉乃へ参ル。独乙より帰リタル留学生小金井来リ届扣ヲ渡ス、同人ハ照マロ同居セシ由

廿六日 雨

出学

廿七日 雨

出学、午後二時ヨリ節酒会小会ニ付参リ演説ス、夜七時ヨリ神保町催眠術ヲ施ス川田龍吉ト申者方へ参リ催眠術ヲ見ル。今日高床上ケ即三週ナリ大ニよろし

廿八日 曇小晴

午時富士見軒へ参ル、正矩と共に

廿九日 雨

出学。午後五時ヨリ弥生会へ参ル、農商務雇ナウマン氏地質所ニ而雇止ノタメ饗応ニ付被招参ル。今晚宅ニ而合セ物アリ。独乙よりハガキ来ル、五月十五日付ナリ、東洋銀行償還金半額即百六十弗受取リタル旨申渡ス但右入用少シカ、リタルナルヘシ

三十日 雨

理学部、出掛ケ山縣へ参ル

七月

一日 雨暴風雨

出学

二日 晴風

出学出掛歩行。米船ニテ書面并新聞ヲ出ス、但明日出シ由。東京隅田川其外稀ナル出水

三日 晴

出学出掛歩行

四日 晴

出学出掛ケ歩行

五日 小晴

在宅。夕方小金井ヲ招ク、伊三郎招伴

六日

今日ナウマン帰国ニ付植物園ニテ饗応参ル

七日 一寸雨小晴

出学、出掛ケ歩行、帰上野子ツトウ方へ参ルナウマン帰(生体)故ナリ

八日 小晴

理学部、午後文部省へ参ル、会議故ナリ

九日 曇

出学、出掛ケ歩行。今日清宮参リセリ、但祝い十一日トナス由。今日産衣酒肴ヲ祝遣ス

十日 雨

出学

十一日 雨曇

今日不出。午後三時より紅葉館へ家族一同参ル、今日ハ清子、宮参リ祝ヲ山縣氏ニ而紅葉館ニ於テ催シタル故ナリ、随分盛ニテアリキ十時近帰宅

十二日 晴

在宅正矩来ル、奥山来ル午饭

十三日

出学、往返歩行

十四日 小晴

散歩ソレヨリ勸工場へ参ル

十五日 小晴 雨

出学、出掛ケ歩行。盆ヤリ物、鈴三拾円、高拾円、晴彦五円。竹内薬礼式拾円、念速寺壹円五十銭。八木反物壹円七八十銭、山本同断外品物添、佐

七、米次、馬丁反、下女等同斷

十六日 晴

出学

十七日 晴

出学、出掛歩行、今日少々アツシ。高今日一ト先富士見町へ参ル宅へ逗留七十五六日斗

十八日 晴

在宅アツシ。去ル十六日ト今日ト兩度ニテ晴彦、幸、徳、梅、久之名前ニ而五百円ヲ駅通局貯金預所即麴町郵便局へ預ケル

十九日 晴

在宅

廿日 晴 アツシ

出学。今日独乙へ為替ヲ出ス、米船大蔵省為替券、今般ハ三百六拾五弗ヲポントニ替出ス、即六拾五ポント四片ナリ、壹弗ニ付三シルリン六片四分ノ三替ナリ、元来六ヶ月分五百拾弗ノ処、先日東洋銀行ヨリ返償金百六拾弗アリシ旨申越ニ付、其内ニテ代言入費等如何宛カ、リシヤ未タ分ラ子トモ、先ツ拾五弗モカ、リタルモノト認メレハ百四十五弗トナル、此百四十五弗ニ三百六十五弗ヲ合スレハ即

五百拾弗トナリテ是レカ来ル九月ヨリ明年三月迄之分ナル、今日書面新聞モ出ス

廿一日 晴 アツシ

不出学

廿二日 晴アツシ

出学、出掛ケ文部卿方へ参ル。今夕食事之節左下ノ奥齒一ツ抜ケル、去年頃ヨリ動キ且時ニ少々之傷ミアリタリ、齒ノ抜ケタル初度ナリ

廿三日 雨

出学

廿四日 晴

午時ヨリ徳、梅同道波付添 横浜馬渡へ参ル、馳走アリ一時半汽車ニ而参車ニ而帰ル、宅へ帰リタル始ト九時ナリキ

廿五日 晴冷

在宅。去ル廿日ニ郵送シタル為替券ノ第二号ヲ今日仏船ニテ出ス、今度ハ直ニ照磨へ出ツ

廿六日 晴

今日山口、広島、岡山三県へ巡幸御発轡ニ付新橋へ奉送ノ為メ午前

九時参ル、十一時十五分新橋御発車ナリ

廿七日 晴アツシ

出学、出掛ケ歩行

廿八日 曇小雨

不出、独乙より六月七日発之書面着無事、午後猶又六月四日付之書面着、学科付等差越ス

廿九日 晴アツシ

九時前西久保并品川へ参ル。今日母上祭日上ケ物、正矩来ル

三十日 晴少々ハ暮ヨシ

在宅。和田維四郎帰朝ニ付来ル

三十一日 晴随分アツシ

今日学習院卒業式ニ付被招参ル九時より十二時ニ立食アリ、一時比帰ル

八月

一日 晴

在宅、午後六時より西郷、羽田野氏ヲ富士見軒ニ而招待ス

二日 晴

在宅。夜散歩四谷辺

三日 晴アツシ

出学出掛ケ歩行。夜雨午後赤坂小児来ル

四日 雨随分大雨

在宅

五日 雨

出学

六日 晴朝一寸雨風

九時より子供召連四谷ステーションヨリ汽車十時三十分ニ而目黒へ参リ内田屋午飯ソレヨリ不動へ参リ、又人力ニ而品川ステーション江参リソレヨリ新橋迄汽車、子供等猶又人力ニ而余ハ歩行ニ而帰宅

七日 晴風

出学、出掛ケ歩行

八日 晴風

仏郵船ニ而書面ヲ独乙へ出ス、先日米船ニ而出シタレトモ未夕発船セスト云フノ説アリ、且為替之事ニ付申遣ス事アリタル故ナリ書籍も注文ス

九日 晴アツシ

今日正矩、河合、八木等へ自由進化論ヲ論シ聞カス。午時正矩、晴彦ト共ニ富士見軒へ参ル。鈴両三日前より左乳房脇ニ腫物出来痛ム、小山田へ診察ヲ頼ミ置ス、梅四五日前より少シツ、腹痛、昨日より稍甚タシ是亦診察薬用ス、多分懐虫ナルヘシトテ殺虫薬ヲ用フ

十日 晴

出学

十一日 晴

在宅

十二日

不出学。今日還幸ニ付新橋へ奉迎ソレヨリ参内

十三日 晴アツシ

在宅、夜散歩。梅追々よろし、晴彦腸痛

十四日 晴

出学。晴彦よろしく、鈴、梅葉四五日前より今日迄鈴、晴ハ一日一通り位、梅ハ二通り位、但晴ハ昨二日ナリ

十五日 雨後晴

在宅、夜散歩

十七日 晴

出学。今日米船ニ而独乙へ書面并新聞ヲ出ス書籍も注文ス

十八日 晴アツシ夜雷少々雨夜中アツシ

在宅。夜散歩

十九日 冷曇夜雨

出学、出掛ケ大久保一翁へ参ル留守。伊三郎明日出立ニ付夕方暇乞へ参ル、此方ヨリモ参ル

廿日 曇小雨冷

在宅。夜散歩四谷へ参ル。今日伊三郎中国九州諸県へ出立、晴彦新橋迄送ル

廿一日 晴冷

出学、夜散歩

廿二日 晴アツシ

在宅、独乙より七月三日出之書面来ル、無事

廿三日 晴アツシ

出学

廿四日 晴冷

在宅

廿五日

廿六日 晴冷

出学、出掛ケ下田へ参ル、朝より高、清ヲツレ来ル一泊

廿七日 小晴冷夜アツキ可甚タシ

在宅。高帰宅夕方

廿八日 晴アツシ

出学

廿九日 晴アツシ不堪

在宅

三十日 晴アツシ不堪

今日父君祭付正矩来ル

三十一日 晴風

出学。独乙へ書面新聞ヲ出ス、米船 der Kampf des Treib im or-

ganismus 注文ノ事ヲ委敷申遣ス。晴彦、鈴柄気薬二日分。尤柄気薬

四日分、医者一名来ル

九月

一日 鹵風雨冷

在宅

二日 小雨小晴冷

文部省へ参ル

三日 曇冷

今日エーキマン送別、小石川後楽園ニ於テ午後四時半ヨリ参ル、私カニ本人断リ十時過帰ル

四日 晴

出学

五日 晴

在宅

六日 冷

在宅

七日 晴

出学、出カケ文部省方へ参ル

八日 小晴

在宅、夕方富士見軒自分一人散歩

九日 晴、今日二百廿日ナレトモ静ナリ

十日 晴

在宅

十一日 晴

出学

十二日 晴アツシ夜雨

出学、午後講義、正矩晚餐

十三日 曇冷

十四日 晴冷

出学

十五日 晴

出学、ソレヨリ学士会院九時前帰宅、往返歩行、但大学ヨリ会院迄  
学校馬車

十六日 曇雨

所勞之旨ニテ断。米船ニ而独乙へ書面ヲ出ス

十七日 晴冷

出学

十八日 雨風邪夜風甚シ雨ハナシ冷

出学

十九日 晴風冷

出学往返歩行。仏船ニ而独乙へ書面新聞ヲ出ス。郵便為替ヲ出ス、  
照磨方へ六ポント十四シルリン余、是ハ銀貨三十八円分（内二拾三  
円ハ先返ス為替ノ不足拾五円ハ三輪より書物照マロ江返ス分ナリ）  
今船式拾三円ヲ遣シタルニ付（欄外注記「△七月廿日ニ出シタル為  
替」）先返ス之分十月ヨリ三月迄ヲ九十五ポントノ割ニナリタルナリ  
（此次八十九年一月中旬ニ九十五ポントヲ為替ニスルナリ、此分ハ来  
年四月より九月迄ノ分ナリ、且フリドレンデル江も書物代六ポント拾  
四シルリン余ヲ出セリ

廿日 晴冷



在宅

廿一日 晴

出学。独乙より七月二十九日并八月二日認之書状、着無事

廿二日 晴

出学、出掛歩行、三時ヨリ法学協会ノ会ニ出テ法ト道トノ別之題ヲテ演説ス

廿三日 雨

秋季皇靈祭ナレトモ所勞不參斷、正矩来ル。今夜十五夜ニ当ル由

廿四日 晴

出学、出掛歩行、山縣へ見舞ニ參ル。照マロ八月三日よりコツペンハーゲンへ参リタル由ニ而地よりハガキ差越ス、尤五六日ニ而伯林へ歸ル事ノ由

廿五日 小晴微雨

出学、往返歩行。幸、華族女学校入学試業ニ參ル。赤坂きよ女食初メニ付幸、徳、梅參ル。魚料三円祝ス

廿六日 雨

出学、午後講義

廿七日 小晴

在宅 夜散步

廿八日 小晴

出学、出掛ケ歩行

廿九日 小晴

出学、往返歩行

三十日 小晴

出学。ソレヨリ大学小集会ニ付八百松へ參ル

十月

一日 曇夜雨

出学、ソレヨリ明六社会ニ付三河屋へ參ル

二日 大雨

所勞之旨ニ而斷。今日独乙へ書状并新聞ヲ出ス、書籍も注文遣ス

三日 晴

出学、出掛歩行。午後二時過より一同四谷へ被招參ル。夜、三平之件ニ付諸人来ル

四日 晴  
在宅

五日 晴

出学、出掛ケ歩行。鈴、徳、梅、久、高輪へ参ル、亡祖父三年忌故ナリ。幸、華族女学校入学試験済ニ而今日ヨリ開校ニ付出ツ

六日 小晴

出学、往返歩行

七日 小晴

出学。文部省親睦会、法学部第二科教場ニ於テ夜八時半帰ル

八日 雨

出学

九日 晴

出学、往返歩行

十日 晴

出学、出掛ケ歩行。独乙より八月廿二日付書状来ル無事。独乙へ小荷物出ス、京橋竹川町拾壹番地肥前屋ニ托ス、十三日ノ英船に出ス  
筈。今日自由論講義

十一日 晴

在宅。念速寺住僧来ル

十二日 晴

出学、出掛ケ歩行、帰り山縣へ参ル、夜赤坂へ参ル。独乙へ書面并新聞ヲ出ス、米船ナリ

十三日 晴

出学、出掛ケ歩行

十四日 雨

出学

十五日 雨

出学。午後二時より学士会院へ参ル、八時過帰宅

十六日 暴風雨但北ヨリ、午後止ム

出学、出掛ケ人力車、帰馬車

十七日 曇一寸雨

神嘗祭ナレトモ所勞之旨ニ而断

十八日 小晴

子供等ヲ連レ上野汽車ニ而王子へ参ル、扇屋午飯ソレヨリ稲荷へ参リ、帰リハ人力車

十九日 曇小雨

出学。法学士会ニ付富士見軒へ被招参ル

廿日 雨

出学、夕正矩送別ノタメ富士見軒へ参ル、正矩新潟県巡回ノタメナリ

廿一日 小晴

出学、出掛ケ歩行。正矩今日午時出立。独乙へ書状新聞出ス、小荷物先日出シタ<sup>マ</sup>の書付ヲ出ス

廿二日 小晴

今日腸胃不直ニ付所勞断ニ而淺草近辺散歩。夜八時過、高(九段山縣ニ居ル)病氣ノ由ニ付、鈴参リ候処矢張不直よし故自分にも参候処、甚タ不直胃腸カタルノ急劇ナルモノ、由、原桂仙、橋本綱常、池田謙斎も参リ居ル、下痢大ナルモノ一度有之、ソレヨリ余徹夜セリ

廿三日 晴

今晝ハ高少シ落付キタリ、最下痢ハ甚少シ、併シ衰弱極マレリ、今

日所勞断、午前一寸掃毛、午後猶又参リ夜泊ス、夕方猶又少々よろし

廿四日 雨

今日高少々よろし、今日も大抵参リ居ル宿泊ス、所勞断

廿五日 曇

高今日同様、併シ悪敷様子もあり全ク安心ナラス、今日も宿泊、伊三郎今晚帰京、所勞断

廿六日 晴

今朝より高、大二宜シク夕方よりハ更ニ宜シ、今日夕方参ル、但シ宿セス

廿七日 晴

所勞断、高、今朝猶宜シ、是レナラハ安心ト申ス事、脉ハ始メノ起リノ時ヲ除クノ外、始終割合ニ悪クナラス故ニ大二よかりしならんと医師ノ説ナリ

廿八日 快晴

朝一寸山縣へ参リソレヨリ出学、高今日ハ始テ笑出テタリト云フ、食氣も追々出テタリ、併猶メルキ表合五尺位若クハソワブ少シ斗ノミ、其他ハ害ニナルト申スコトナリ

廿九日 快晴

出掛歩行、出学、帰り山縣へ参ル、高大ニよろし、今日病室消毒法ヲ施シ全ク無毒ト看做スコトナレリ

三十日 晴

出学、出掛ケ歩行

三十一日 快晴

今日学位授与式、出学、出掛歩行、<sup>(採種)</sup>帰歩行、夕七時より独乙東洋会へ被招参ル、夜十時半帰宅

十一月

一日 快晴

午前馬渡俊猷来ル、竹吉養子之式相談、午後明六社へ参ル、夜九時帰宅。高之方見舞へ参ル、追々よろし

二日 曇夜雨

出学。独乙へ書面新聞ヲ出ス米船

三日 雨午後晴

天長節ニ付十時過参内、御宴会アリ十二時半帰宅。夜外務卿夜会アレトモ断ル

四日 晴

出学、出掛ケ歩行

五日

出学

六日

出学

七日 晴

文部省へ出ツ

八日 晴

一同植物園へ参ル、諸親戚も参ル

九日 晴

出学、出掛ケ文部省。独乙より九月十九日、廿三四日付書面着、来春試業ノ事并入用等申越ス

十日 晴

出学、出掛ケ歩行

十一日 小晴

出学、往返歩行

十二日

出学。来ル十二月五日ニ祖先両親ノ祭ヲナスニ付出石人へ招状ヲ出ス

十三日 快晴

華族女学校開校式ニ付参ル。独乙へ書面ヲ出シ、ドクトル試業ニ付金遣ス事ヲ返辞ス、英船

十四日 曇晴

出学。大木江被招参ル

十五日 快晴

午後より学士会院へ参ル、高全快、今日来リ一泊ス

十六日 快晴

今日所勞之旨ニ而断、耳両三日前より腫物出来ル

十七日 小晴一寸雨

出学、婦リ文部省

十八日 曇小雨

耳痛全快セス、外氣ニ触ル、ニ不宜故所勞断

十九日 曇小雨

出学、出掛ケ西、品川へ参ル、西ハ大病ト聞キタル故ナリ、併大ニ宜敷よし

廿日 曇

出学

廿一日 晴風寒し

文部省并文部卿方へ参ル。竹吉養子式ニ付売茶亭へ被招兩人参ル

廿二日 快晴風寒し

今日ハ昨日ノ報ニ此方ニ馬渡夫婦南部夫婦ヲ招ク、正矩お高招伴

廿三日 一寸雪雨

今日ハ新嘗祭之処所勞ニ付不参御届。独乙へ書面新聞ヲ出ス米船

廿四日 雨

昨夜ヨリ耳腫物再発、昨晚痛甚敷コト凡一時半斗ソレヨリ少々軽クナル、今日少々熱氣アリ、所勞断、昨夜ヨリハ宜シ、榊、幸晚来ル

廿五日 晴

今日グロート送別ニ而植物園へ参ル。耳猶全快セス

廿六日 晴

耳猶全快セサルニ付所勞断

廿七日 晴

耳猶充分ナラス所勞断

廿八日 晴

耳追々よろしけれとも併今日猶一日所勞断、夕方石川千代松独乙へ  
参ルニ付送別会、富士見軒へ参ル

廿九日 晴

在宅、正矩、正之来ル、来ル五日祭事ノ事ニ付協議ヲナス

三十日 晴寒シ

今日始メテ出学

十二月

一日 晴

出学。夕、子ットウ方へ被招参ル、夜十時過帰宅

二日 小晴

出学、往返歩行耳全快

三日 小晴

出学、出掛ケ歩行。今日猶又耳少々痛ム。独乙ニ書面新聞を出ス米  
船

四日 晴

出学、出掛ケ歩行、坪井翁病氣ニ付見舞ニ参る、耳追々よろし

五日 大快晴 温暖

今日芝紅葉館ニテ祖先并先考先妣御祭事ヲ宮ミ、午後一時ヨリ旧藩  
主公并御家族及ヒ旧同藩旧同郷諸氏ヲ招キタリ、万事好都合何連も  
大満足ニテ済ミタリ、此日招ク所ノ人百五十人斗、但断アリテ百人  
斗、老人ニハ旧藩老公竹村遊山、竹村好博、肥田秀齋、新井晴景、  
池内楽哉等、奏任以上ニハ桜井、麻見等、老婦人ハ植柘祖母、長岡  
母、竹村遊山妻等、正矩祭天ヲ證シ余ハ謝辞ヲ述フ、全ク済ミタル  
ハ午後七時前、余ノ帰宅ハ八時比、比日前夜曇リタル故大ニ心配シ  
タルニ朝ヨリ大快晴、実ニ清朗大愉快ノ天気ナリキ、且温暖ナル日  
ナリ故ニ一同大満足ノ様子ナリキ、諸氏ヨリ備物アリテ海軍楽隊音  
楽取調所楽事ヲ頼ム、是亦大愉快

六日 晴風寒シ

在宅、朝正矩来ル

七日 晴寒シ

出学、出掛ケ歩行

八日 晴

出掛ケ歩行。独乙より十月十五日出之書面来ル無事

九日 晴

出学、出掛ケ歩行

十日 小晴 夜雨

出学、出掛ケ歩行

十一日 雨

今日断、青木公使帰朝ニ付参ル、不在

十二日 晴

出学。ソレヨリ三時すぎ植物園へ参ル、浜尾、三宅、長井、松村、

宮下等送別会ノタメ、七時半比帰宅

十三日 快晴

午前八時過より歩行ニ而亀戸五百羅漢等其外へ参ル。今日煤払ナリ

○出掛ケ宮内広方へ参ル

十四日 晴

出学

十五日 小晴

出学ソレヨリ学士会院、一寸坪井翁方へ見舞ニ参ル、少々よろし

十六日 晴

出学、仏教師アツペール帰京ニ付宴会、植物園へ参ル、午飯

十七日 晴午後一寸雨

出学、一時二子ツトウ（近日帰国）、ベルツ（先日帰京）ヲ招キ植物園ヲテ午飯参ル。独乙へ書面新聞ヲ出ヌ米船

十八日 晴

出学。今日独乙へ来年四月ヨリ九月中迄之学資金并卒業入費共百六十ポンドヲ送ル、正金銀行、但大蔵省へ願フ、尤学資金九十五ポンド卒業入用七十三ポント故、合シテ百六十八ポントナレトモ都合悪敷故先ツハポントヲ減シ百六十ポント送レリ、但不足ナレハ此次之分ヲ一ヶ月早ク送ル積リナリ仏船。浜尾、三宅、河本、宮下等今日出立、新橋迄送ル

十九日 晴午後雪夕方止ム

内務省并青木公使方へ参ル、留守

廿日 晴

正矩来ル、午時比より勤工場へ参リソレヨリ節酒会へ参ル、一橋外  
大学講義室

廿一日 晴

午前十一時半子ツトウ帰国ニ付新橋江参リ夫レヨリ出学

廿二日 晴風寒シ

文部省へ参リソレヨリ出学

廿三日 晴

出学ソレヨリ文部省へ参ル。独乙より十一月三日出之書状到着無事  
。独乙へ去ル十八日送レル為替之第二号ヲ送ル。昨日政府大改革、  
森有礼文部大臣トナル、伊藤博文内閣総理大臣トナル

廿四日 雨

出学

廿五日 晴

文部省へ参リソレヨリ森大臣方へ参ル、夕富士見軒へ参ル、正矩、  
晴彦、帰リ山縣へ参ル

廿六日 小晴

出学

廿七日 晴暖

在宅、夕方散步

廿八日 曇晴

今朝六時半過出立、七時三十分之汽車ニ而湯本温泉へ参ル、六時前  
福住へ着、佐七随行

廿九日 晴

湯本逗留、東京へ書面ヲ出ス

三十日 晴暖

午前十時過より宮下へ散歩、同処にて午饭奈良ソレヨリ帰ル三時前

三十一日 晴

宿ヨリ餅、密柑ヲクレル、夜野村文夫新聞記者等来ル、今日参候よし

◎湯本へ持越シタル金ノ内ヨリ遣フタル分

。拾銭茶代。三拾三銭午饭。壹円拾銭汽車。三十銭荷物。七十五銭  
買物。三円七十五銭人力。四十銭神奈川茶代。三十銭人力酒手。六銭五リ  
ン橋銭。七銭五厘橋銭。拾銭茶代。貳拾銭片岡。拾六銭清物。貳円  
五十銭福住へ。貳円河合へ写真代金ハ。旅行費ノ外ナレトモ左ノ内ヨリ出セリ



六円三十銭小出シテ外ハカバンニテ預ケル

○三拾二銭宮下。拾銭茶。七銭佐七二。拾銭ヒゲ。三拾五銭一月六日箱根行

○七拾九銭同午飯并。式拾銭同茶。拾四銭自分并佐。式円五拾六銭

五リン湯本細工。六円九十三銭宿。式円拾銭。箱根七ヒゲソリ代。式円宿茶。式円

同下。四円婦り馬。六拾銭ツケ物。壹円四拾銭婦并茶代。式拾銭取者茶代

○壹円拾銭婦汽車。五拾銭同荷物。三拾六銭婦佐七。三拾銭佐七

十七年

十二月廿四日 晴

午前七時半出宅、八時十五分之汽車ニ乘リ九時四十分神奈川着、若

松屋へ休ミソレヨリ人力車三丁ニ而出立、藤沢ノ若松屋ニ而午飯、

五時比小田原片岡へ着。今日之入用

○八拾五銭上等。式拾五銭佐七下。三拾銭荷。四拾銭神奈川若。式円

拾五銭神奈川より小田原迄。三拾銭小休三。四拾銭午飯茶。六銭六リン

馬入橋。七銭五リン酒匂。六拾七銭五リン小田原旅。六銭同酒。五拾

銭小田原片。岡茶代

○廿五日 晴 夜雨

午前七時小田原出立ニテ吉浜、午飯十一時前、ソレヨリ午後一時過熱

海富士屋へ着、枕流亭ニ居ル。今日ノ入費。式円拾六銭小田原より

○三拾六銭吉浜午。飯茶代共。拾銭小。式円五十銭軍士ヤ。三拾銭雇婆。三拾銭

人力三人へ一度浴

茶代

○廿六日 晴

午前九時過関谷、岩谷ワカ来ル、是レハ西三日前ヨリ樋口へ参リ居ル由

○甘鯛一尾ヲ買フ拾三新聞着ス

○廿七日 晴

午前原田豊吉来ル、尾張屋へ居ル又安藤就高来ル、是ハ富士屋へ居

ル、午后二時過散步、西洋料理へ参ル、新聞着ス、夜肩張り按摩ヲ

雇フ。宿ヨリ魚三尾クレル

○廿八日 晴 日曜

午後樋口之関谷、岩谷方へ参ル、今日松井直吉等着、安藤就高方へ

モ参ル、是ハ富士屋奥ニ階ナリ

廿九日 晴

午後十二時早池半過比ヨリ三島道散歩、二時比帰ル、宿より餅クレル

三十日 雨

今日東京宅より書状来ル、晴彦種痘之ツキタル由其外久ハ固ヨリツ

キタリ其他之子供ツキ不申由。森有礼相模屋へ参リ呼ニ越ス参ル、

野猪西洋調理

三十一日 晴

午前巖谷、関谷、松井来ル、午後散歩

是レヨリ前ニアリ

発事入用           (虫巻)

三四五十銭

壱円五十銭

五円

四拾銭

十五円

四円廿五銭

神田  町四番地

尾張屋  
ヲハリ

湯島切通坂町 七番地

本郷龍岡町十三番地 五十嵐

須田町四丁目 十二番地 西郷

駒込西片町十番地 羽田野

湯島新花町 九十七番地 市川

下谷御徒町三丁目六十六番地 冨塚

十八年九月十六日為替不足分ヲ送リタル時ノポイントハ丁度五円七十  
銭斗ノ相場ナリキ、尤相場ハ俄ニポイントノ高クナリ時ナル故、平常  
トハ違フナレトモ先ツ此割ニスレハ

一ヶ年百九十ポイントハ 千〇八三〇〇トナル

此半分六ヶ月分ヲ一度ニ送ル時ハ

五〇四一〇一円五十銭ナリ

結果六ヶ月分ノ

五百十弗ヨリ多キコト三十一円五十銭ナリ

一ヶ月二円六十銭余高キ割

万国運送小荷物取次

東京京橋区  
竹川町拾一番地

江副廉蔵  
肥前屋ト云フ

牛込天神町七十一番地

地坪三百坪 建家五十坪

四百五十円

十四、十二、九、七、 橋本

廿八、廿四、廿二、廿〇、十八、十六、十五、十四、

十三、十二、十一、十、九、八、七、 原

二日、七日、十一日、十四日

両替所二丁目十二番地

甲斐商店 佐土原町三丁目六番地関口直重

〔謝辞〕 本日記の覆刻にあたり、伊藤隆東京大学教授、広瀬順皓国立  
国会図書館主任司書に種々ご教示をいただきました。記して感謝い  
たします。

(なかの みゆる 元東京大学史料室室員・立教大学史料室)